

北海道新幹線を活用した修学旅行獲得の取り組みについて

J R 北海道では、観光でのご利用が多くを占める北海道新幹線について、主に中学校の修学旅行でのご利用を獲得する取り組みを行っております。

1. 現状

[北海道（札幌市内、胆振、渡島地域）から]

- ・青函トンネル開通前まで 青函連絡船を利用して東北へ（3泊4日）
- ・青函トンネル開通後 津軽海峡線を利用して東北へ（3泊4日）
- ・近年（航空機利用解禁以降） 航空機を利用して首都圏へ（2泊3日）が増加 ※

※学校行事が輻輳している状況にあることから、2泊3日の行程で学習できる首都圏方面へのご利用が増加しています

(参考) 主な中学校の鉄道ご利用状況

単位 学校数：校、生徒数：人

	札幌市内		渡島・檜山		胆振		合計	
	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	生徒数
25年度	94/97	16,131	49/63	3,289	15/40	856	158/200	20,276
26年度	88/97	14,631	53/63	3,467	12/40	784	153/200	18,882
27年度	74/97	11,972	54/63	3,770	16/40	1,202	144/200	16,944
28年度	68/97	11,617	53/61	3,788	16/40	1,301	137/198	16,706
29年度	67/97	11,168	53/61	3,444	20/40	1,849	140/198	16,461

※札幌市内校については、平成 26 年度ご利用分から航空機利用が解禁となっています

※修学旅行のお申し込み時期は、2 年前の冬(平成 29 年度利用の場合平成 27 年 12 月)となっています

[東北から]

- ・東北新幹線開業前までは、青函連絡船利用で北海道方面への利用があった
- ・現在、多くの中学校は東北新幹線を利用、首都圏方面へ（2泊3日が中心）

2. 当社の取り組み

当社が設定する行程でのご利用であれば、新幹線の運賃、特急料金ともに 50%引きとし、さらに、札幌方面からの在来線特急も同様の割引としたうえで、乗り換え利用ができるようにしています。また、各地で教育旅行説明会を開催し、鉄道利用そのもののメリット（事前に座席割付が可能、搭乗手続が無い、トイレの心配不要、最寄りの駅から発着できる等）についてもあわせてお知らせしております。

今年度は、平成 30 年度に実施される修学旅行について、以下の取り組みを行います。

[北海道内での取り組み]

目的地を首都圏から東北にシフトすることを主眼とした取り組みを行います。
東北だからこそ学ぶことができる文化や歴史、震災学習といった教育効果の高さを強くPRしてまいります。

- ・平成26年度から、札幌、函館のほか、翌27年度からは「北斗」が運行する苫小牧、室蘭の中学校や旅行会社の皆さまを加え、東北観光推進機構をはじめとする東北エリアの自治体と共同で説明会を開催しています。
- ・説明会では、教育素材のほか、暖かなおもてなしについてもお話いただいています。
- ・新幹線開業に伴う速達性の向上による旅行日程の短縮（3泊から2泊へ）、目的地への早めの到着、より遠方へもご利用可能、といったメリットについて、PRを行っています。
- ・これから進めていく、平成30年度の獲得にあたっては、東北観光推進機構との連携をより強化してまいります。
- ・今年度の展開にあたっては、教職員の皆さまが参加しやすい夏休み期間を中心に、新幹線のご利用が更に見込める苫小牧、室蘭をはじめとした胆振エリアをはじめ、さらに、札幌近郊エリアについても、新幹線利用を強くアピールできるよう進めてまいります。

[東北での取り組み]

目的地を首都圏から北海道にシフトすることを主眼とした取り組みを行います。
「北海道は、遠い、高い」といったイメージを、新幹線の速達性と修学旅行用の割引料金や首都圏との宿泊料金の違いをPRすることで払拭します。

- ・平成26年度から、JR東日本仙台支社の協力をいただき、北海道観光振興機構と共同で、仙台地区の旅行会社の皆さまに対し、説明会を実施しております。
- ・今年度については、JR東日本仙台、盛岡両支社からの協力をいただき、北海道観光振興機構とも一体となって、これまで旅行会社の皆さまに対し実施してきた説明会を教職員の皆さまにお聞きいただけるよう、調整を進めてまいります。
- ・開催エリアもこれまでの仙台のほか、より多くの東北エリアの皆さまにご参加いただき、修学旅行の選択肢として北海道を選んでいただけるよう、盛岡、山形地区でも開催できるよう準備を行います。



↑ 函館地区教育旅行説明会



↑ 仙台地区教育旅行説明会資料(表紙)

北海道新幹線の開業効果を一過性のものに終わらせないよう、また、北海道～東北の交流人口のさらなる拡大を実現できるよう、「北海道新幹線を利用した修学旅行」の獲得に今後も努めてまいります。